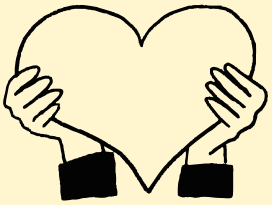
道徳通信 share



芝山西小学校
令和7年6月2日
No.3

先日、子供たちが道徳ファイルを持ち帰りましたが、ご覧いただけたでしょうか。これから1年間、道徳の学習で学んだことをファイルに積み重ねていきますので、ぜひお子さんに前向きな声かけをお願いいたします。

6年2組　「心を形に」～れいぎは心のあらわれ～

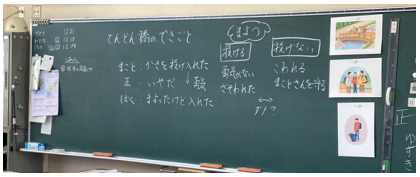
６年２組では「心を形に」という教材を使って、"相手の気持ちを考えて”をねらいとして学習しました。この教材は、挨拶ボランティアを行っていた「わたし」が、一人のおばあさんとの交流から挨拶の本来の意味を見いだすという内容です。

子供たちは話し合いを通して、自分から挨拶することの大事な意味には、「相手に寄りそう事で、人とつながり互いに元気をもらうこともある」のだと気づきました。振り返りの時間では、自分の生活と比べてもっと自分から挨拶していきたいと考えていました。

子供たちのふりかえり

・あいさつすることは、人とつながったり、元気づけたりすることができると気づいた。
・これからは、地域の人たちにお礼の気持ちをこめて挨拶したいと思った。
・自分から挨拶すると、自分も相手も気持ちがよくなると感じた。
・相手を笑顔に元気づけられるような挨拶をしたい。
・挨拶やお礼などをする時は、思いやりの心を忘れないようにしたい。

４年２組　どんどん橋のできごと



4年2組では「どんどん橋のできごと」という教材を使って、節度・節制を考えます。この教材は主人公が雨上がりの川に傘を投げ入れることを勧められ、迷った末にそのとおりにします。結果、傘は壊れてしまいました。自分でよく考え、節度ある行動をする大切さを深める内容です。

子供たちは傘がこわれたことに関心が向き、ものを大切にすることの大切さに話が進みそうになったのですが、軌道修正し、節度ある行動に注目させ、興味本位な考えでなく、予測して行動することが節制の源であること考えました。

子供たちのふりかえり

・行動や言葉を言う前に立ち止まってよく考えてから何をすれば良いかということがわかった。
・未来の自分がまた迷うからダメと言ったほうが良いと気づいた。
・つい〇〇しちゃう、をなくせるようなちゃんとしたルールを確認するようにしたい。

早速ご感想を頂き、掲載してもよいということでしたので、紹介させていただきます。ご協力ありがとうございます！
ぜひ、ご家庭での会話の種にしていただき、学校とともに心を育てていければと思います。

いつも大変お世話なっております。道徳通信が始まり、楽しく読ませていただいています。わが子の今月の道徳の感想に「お母さんに（支度を）やらせないで自分でやるんだ」という感想があって思わず笑ってしまいました。心と行動が揃ってくるといいなと思いつつ、道徳の授業の中で心が育っているのは嬉しいなと思いました。毎月、子どもの心の成長をこういう形で見られるのはありがたいなぁと先生方のご指導に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も道徳通信楽しみにしています！

道徳通信への感想や道徳に関するご意見など、引き続き保護者の皆様からのコメントをお待ちしております。
何かありましたら、**QRコード**または、切り取り線よりお知らせください。よろしくお願いいたします。

お名前（　　）

ご感想やご意見　　◎道徳通信にコメントを載せてもよい【　はい　・　いいえ　】